

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3372700553		
法人名	医療法人社団 宇根本会		
事業所名	グループホーム なごみ (東ユニット)		
所在地	岡山県浅口郡里庄町新庄2920		
自己評価作成日	平成24年6月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.jp/33/index.php?action_kouhyou_detail_2010_022_kani=true&JigvosvoCd=3372700553-00&PrefCd=33&VersionCd
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社アウルメディカルサービス		
所在地	岡山市北区岩井二丁目2-18		
訪問調査日	平成 24 年 6 月 27 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

・家庭の雰囲気が出るように日常の中で出来ることを手伝って頂いたり、毎日の日課で体操やレクリエーションを取り入れた、楽しみや安らぎのある生活を支援します。・庭には、季節の花が緑のカーテンを作り、野菜畑を管理し季節の野菜を収穫し、料理に使用、食卓の彩りを添えています。・毎月の誕生日会やお花見、敬老会には家族や友人を招待して一緒に食事を摂って頂いています。又、面会時には、日頃の様子をお話して、気軽にホームへ来て頂けるよう支援しています。家族の方が遠くに住んでいて、面会になかなか来られない家族の方には、定期的に近況をお知らせしています。・医療面においては、医師との連携が出来ており、24時間体制で対応出来るようになっており、ご家族様にも安心して頂けるよう支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

毎年恒例となっているグリーンカーテンや季節の花がプランターに植えられ、心地よい空間が玄関まで広がっており、ちょっと寄り添ってみたいような親しみやすい雰囲気がある。訪問した日は天気がよかったため、何名かの利用者が庭で日向ぼっこをしながら、職員と一緒に歌ったりお話をしたりしながら楽しそうに過ごされており、微笑ましく感じた。施設から少し離れた所に野菜畑と聞き、管理者と一緒に見学に行ったところ、本格的な畑が広がっており驚いた。当日はかぼちゃを収穫して事業所に戻り、夕食のおかずは何にしようかと利用者と一緒に相談していた。利用者もだんだんと重度化しており、職員が中心となり管理をしているが、ときどき散歩がてら寄り添ってみたい、収穫を喜んだりすることで日常生活のいいアクセントになっている。
母体である医療機関が近くにあるため、24時間365日体制で連携がしっかりとできている、管理者も看護師であり医療体制の充実やターミナルケアなども家族の要望やチームケアにより積極的に支援を行っている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果(東ユニット)

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝8:45になごみ事務所で「なごみ基本理念」を当時の職員で斉唱することで、一日の始まりとしている。この場で管理者から連絡や注意事項など伝えている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事の案内があればできるだけ参加している。PTA主催の資源回収、秋祭り、友愛セール、里庄西小学校運動会などにこちらから出向いたり、ホームでの月1回のお誕生日会にはボランティアの方が来られ、歌謡ショー、大正琴など披露して下さっています。ご家族には事前連絡してできるだけご参加頂いています。又、散歩に出たときなど近所の方や子供さんたちとの会話もあり利用者の方にも笑顔がみられます。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域運営推進会議において行政担当者や民生委員、公民館など地域の人に認知症の方を取り巻く環境、それに対しての支援についての内容などをお伝えしご理解いただいています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	毎回議事録を作成し意見や疑問点をそのままにせず次回開催までに評価ならびに問題、解決につなげ、報告できるように職員で話し合いを行いサービスの向上に努めている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域行政担当者と密接に連携を図り、情報の収集や指導を仰いでケアサービスに役立っている。認知症対策、感染予防対策など、研修の機会を通じ、今後の取り組みなど伝え、ご協力頂いています。又、介護認定更新時には利用者の日常生活の様子やニーズに対する取り組みなど伝えアドバイスを頂いています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は利用者の言葉や気持ちに耳を傾け、常に利用者を見守っていますが利用者の方が時折落ち着かず脱出願望がある場合、ご家族にご説明の上、一時的にリビングの出入り口などを施錠し事故の発生を未然に防止する措置をすることがある。又、夜間ベッドから降りようとされたり危険な動きがみられる場合もご家族にご説明の上ベッド柵を使用する場もある。安全・安心を第一に利用者のお話を聞き不穩の原因を探り、時にはご家族にご協力頂き、利用者の希望を叶え不安を取り除くようなケースもあります。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員全体が基本理念を念頭に言葉の虐待、身体的虐待、心理的虐待がないか、個人の尊厳や自由について考え、温かみのある関わりができているが、職員同士お互いのケアに注意を払い虐待防止に努めている。利用者への対応で職員自身にストレス、疲労が溜まることもあるので、管理者は職員の健康管理に留意し日常的に共感、或いは解決の手段をアドバイスし利用者への適切な支援が行えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	全職員の学ぶ機会は設けられてはいないが、成年後見が必要なケースがあれば、管理者等への連携ができるように努めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約締結前より、ご家族とのコミュニケーションを円滑にできるような雰囲気づくり、関係づくりを心がけ不安悩み等をお聞きし、十分にご理解、ご納得を頂けるようにしている。又、起こりうるリスク、重度化、看取り等についてもご説明している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族が気軽にご意見やご要望を、直接、管理者及びスタッフに伝えられるよう、普段からの関係づくりをすると共にご意見箱を玄関ホールに設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	気軽に職員からの意見、提案を受けられるよう、話しやすい環境づくりを心がけている。又、管理者から代表者への伝達も密に行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績をできるだけ給与面などで評価し、やりがいや向上心を持てるように努力しているが、規定範囲、バランス面での限界もあり、十分とはいえない。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	資格取得のバックアップ、勉強会への誘い、研修等への参加はもちろんのこと、職員の自発的な向上心を、引き出せるよう助言、協力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、職員共研修等では他施設職員方と情報交換をしており、職場に活かせることがあれば、随時検討、実施しており、各自、同業者との交流の重要性を感じている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前の面談で生活状態を把握するように努め、ご本人の求めていることや不安を理解し、心身の状態や本人の思いに向き合い、利用者本人に受け入れられるような関係づくりに努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族が求めているものを理解し、事業所としてどのような対応ができるか事前に話し合いご家族のこれまでのご苦労や今までのサービスの利用状況、これまでの経緯についてゆっくり聞くことでより良い関係づくりに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時ご本人やご家族の思い、状況などを確認し、対応できることできないことなど、相談を繰り返すなかで信頼関係を築きながら必要なサービスに繋げるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の思いや根本にある苦しみ、不安、喜びなどを、知ることに努め、共に支えあえる関係づくりを大切にしている。又、「なごみ基本理念」に掲げているように、利用者の方は人生の先輩でもあるので、教えてもらう場面が多く持てるようセッティングや工夫を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者の様子など、日頃の状況を細かく伝え、日々の暮らしや出来事、気づきの情報共有に努め、電話連絡したり、来訪時にはご本人とご家族の潤滑油になれるよう心がけている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	今までの個々の生活習慣を尊重し、馴染みの美容院へ出かけたり、家族とお墓参りに出かけられるように支援している。又、友人、知人、親戚の方などの訪問もあるので続けて交流が持てるよう支援している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、皆で楽しく過ごす時間など、利用者同士の関係がうまくいくよう職員が調整役になり支援している。又、心身の状態や日々の感情の変化など注意深く見守り、毎日のお茶や食人の時間はできるだけ一緒に過ごし、多くの会話を持つようにし利用者同士の関係が円滑になるような働きかけをしている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了されてからも、声をかけて下さったり、交流が続き、時折来所されたりもする。職員が施設外で会った際も気軽に声をかけて下さっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	意思疎通が出来る方には、傾聴し、寄り添い、笑顔で喜んで頂けるように、困難な方には目配り、気配りを忘れず、職員同士で話し合い、申し送り帳を活用して個別ケアに努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	家族からの情報を頂き、より良いケアに繋がるよう、プライバシーに配慮しながら行っています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日、一人ひとりの体調管理、状態を記録に残し、朝、夕の申し送り、連絡帳の活用、医師の往診、午後6時、午後9時の医師への定時報告、看護師との連携ができています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	個人別のケアチェック表を活用し記録に残し、繰返し意見交換、カンファレンスを行い、援助に繋げています。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づき実施していますが、記録を活かしきれず、実践に繋がらないこともあります。新たな課題が出た時には見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者と家族が安心して暮らしていくための必要なサービスを臨機応変に提供し、家族の方と一緒に食事の時間も声かけし行っています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域生活を継続していくために、ボランティアの方の情報を得て、ご協力頂いている。又、レクリエーション用品の貸し出しなど、地域にある資源を利用させてもらったり、相談に乗ってもらっている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	事業所の協力医の他、入居前からのかかりつけ医での医療を受けられるようご家族の依頼により通院介助を行ったり、訪問診察に来てもらうなど、複数の医療機関と関係を密に結んでいる。主治医とは定時の報告、急変時には24時間の対応の体制が整っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員を配置しており、常に利用者の健康管理や状態観察に応じた支援を行えるようにしている。些細な変化や気づきにも丁寧な対応で利用者や介護職員のよき相談相手となっている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が安心して治療できるように、又、早期に退院できるように情報交換している。入院中には不安や混乱がないように職員が見舞うようにしています、ご家族とも回復状況など情報交換しながら速やかな退院支援に結び付けている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所までできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者の容態悪化時には、早期に医療機関とご家族との話し合いが出来るように連携し、予後について利用者ご家族に理解を得て頂き、終末期に向けての方針など、利用者ご家族にとってどうあったらよいのか、ご家族の心の変化に配慮しながら利用者が穏やかな最期を迎えられるよう支援している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	職員は定期的に急変や事故発生に備え、地域の消防署の協力を得て、救急手当や蘇生方法を受講している。夜勤帯の緊急時対応についてマニュアルを作成し皆で周知し実際の場面に活かせるようにしている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	施設設備の点検は三宅消火器に定期的に依頼し消防署の定期査察において不備がないかチェックしてもらい、日頃から防災を心がけている。マニュアルを作成し、年に2回利用者とともに避難訓練を行っている。地域の協力体制についても地域運営推進会議で協力を呼びかけている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者個々の生活観の違いもあり、その都度お気持ちを考え、言葉かけをする時にも、さりげないケアを、心がけている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	意思表示が困難な方にも表情を読み取ったり、身体介護を行う時、「これから・・・します。いいですか？」など確認した上で、支援の際は利用者ご本人の意向を確かめる働きかけをして、出来るだけ自己決定して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の体調に合わせた離臥床、食事時間の配慮、個々にあったよう食べやすく工夫したり、入浴時も利用者の気分が乗らないときは気分が変わるまで時間を置いたり、それぞれ体調にあわせた対応をしている。行事などがあるときは職員の都合でそれらを決定してしまうことも少なくない。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	意思表示される方にはご希望の服を着て頂いている。関心がない方には職員が服を選んで「これにしましょうか？」と声かけし、ご本人が答えやすく選びやすいような働きかけをしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の意向や体調にあわせた量にし、メニューなど食材業者とともに努力している。食事は職員、利用者共にテーブルを囲み、和やかな雰囲気を大切にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎日バランスよく食事、水分を摂って頂けるよう支援し、排泄回数や体調への影響を細かく観察している。毎月体重測定し、一人ひとりの状態を把握している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	自力で出来る方は声かけ見守りをしている。出来ない方へは口腔ケアの介助をしている。歯のない方はハミングドを使用し口腔内の清潔を保持している。又、医師の指示があるときは歯科医院へ往診を依頼している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄パターンを職員皆で周知し、トイレの声かけ、誘導と見守り、出来るところは自力でして頂けるよう支援している。尿意、便意のない方へも不快な思いをさせないようトイレの声かけをし、表情など感じとり、トイレ誘導若しくはPトイレなど個々にあわせその方の習慣を活かしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	特に頑固な便秘にならないよう、水分補給を勧め食事での工夫やどうしても便秘になりがちな方へは排便状況をDr.Ns.に伝え、排便促進剤の処方をお願いした上で、状態にあわせ服用し、排便時のショックなど起こさないよう支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそうした支援をしている	気持ちよく入浴できるよう早めに声かけし入浴拒否が続く方へも気分転換できるよう職員からの声かけを大切にしている。入浴の好きな方へは長湯で体調を崩さないよう個々にあわせ、程よく時間を見計らって、声かけしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中でもそれぞれの前夜の睡眠状態やその時の体調により、自室での臥床や休憩を声かけし勧めている。夜間の不眠にならないよう、様子を見て水分摂取の声かけなどで気持ちよく離床して頂き、職員間の申し送りを密に行っている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方・効能・副作用など申し送りと共に薬手帳で常時確認し、利用者本人にも名前確認の声かけをするなど間違いのないよう支援している。又、体調、状態に応じてDr.Ns.に支持を仰ぐなど症状の変化の確認と報告に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	歌が好きな方、散歩が好きな方、自室で気ままに過ごすのが好きな方、学校の先生をされていた方には生徒指導員の役でレクリエーションのリードをお願いするなど、その方が楽しめるような支援をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	季節によって外出の機会を作っている。行先は地区の学校であったり近所の散歩コースであったりするが気分転換が出来るよう支援している。ご家族の行事で墓参りや法事で外出、自宅にも帰ったりされています。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族から当座の現金を預かり、散髪代など必要時の買物に使っています。ほとんどの利用者は自信でお金の管理ができず、職員が金銭出納帳に記入し、折々にご家族の確認を頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	家族に電話をしたい方、取り次ぎや伝言を頼まれると、タイムリーに応じている。手紙もハガキ、封筒、便箋を準備し、その都度対応してご希望を叶えるようにしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	トイレなど共同生活空間が判断しやすいように目印を扉に表示したり、日中の採光、夜間には適度な照明で転倒防止をし、室温、湿度にも配慮して、快適な空間づくりをしている。リビングはゆったりとした広さがあり、ソファなど家具や置物を配置し家庭同様の雰囲気がある。キッチンから料理の匂いがし、掃除機の音、洗濯機の回る音、小鳥のさえずり、テレビの音などがして、壁には写真や季節の彩りを工夫している。カレンダーで日にちを意識してもらえるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングにはテーブルや椅子、ソファを配し、自由に思い思いの場所で寛げるようになっている。食事時には自分の席が用意してあるので、落ち着いて食事ができる。お茶の時間やレクリエーションが好きな場所で楽しめる。皆の近くで少し横になりたい時は、リビングにベッドがあるので利用して頂いている。西ユニットへの行き来も自由にされており、見守っています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の入り口に表札を掲げ、可愛い目印の飾りや写真もつけ、明るい雰囲気になっている。部屋には個人の馴染みの家具や思い出の品を置いたり、好みの飾り付けが出来て、疲れを癒したり、プライバシーの確保ができています。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自力で車椅子を操作できる利用者にホーム内の移動が安全に出来るよう、ゆったりとしたスペースがあり、職員も見守りしやすく見通しが利くような間取りになっている。居室では自力操作がしやすく、ベッドへの移動や必要な物に手が届きやすいようベッドの位置や家具の配置も利用者と相談し決めており、移動、移乗もしやすく、自立した生活が送れるよう工夫している。		